

**製品名:** リン酸化ヒストン H1.4(T17)ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe83776

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ICC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ICC 1:50-1:200
分子量	Calculated MW: 22 kDa ; Observed MW: 30 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	Phospho-HistoneH1.4(T17)
別名	Histone H1b; Histone H1s-4;;p-Histone H1.4 (T17)
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P10412/P16402
免疫原	ヒトヒストン H1.4 の T17 リン酸化部位周辺から合成したペプチド

**背景**

ヒストン H1 タンパク質は、ヌクレオソーム間のリンカー DNA に結合し、クロマチン繊維と呼ばれる高分子構造を形成します。ヒス

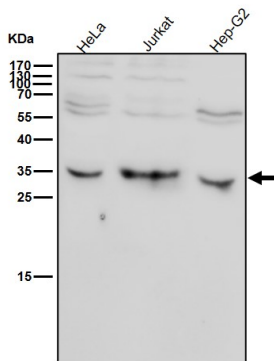
トンH1は、ヌクレオソーム鎖を高次構造の繊維に凝縮するために不可欠です。また、クロマチンリモデリング、ヌクレオソームスペーシング、DNAメチル化を介して、個々の遺伝子転写の調節因子としても機能します。

## 研究分野

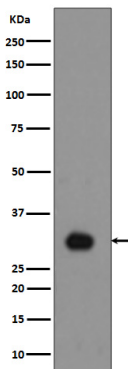
-

## 画像データ

すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



Jurkat 細胞溶解物中のリン酸化ヒストン H1.4 (T17) 発現のウェスタン プロット分析。



リン酸化ヒストン H1.4 (T17) 抗体を使用した、パラフィン包埋マウス結腸の免疫組織化学分析。

